

NO1 南京市 靈谷寺公園 高座寺（甘露寺）無梁殿 靈谷寺（灵谷寺） 玄奘院 靈谷塔 中山陵 棲霞寺

NO2 鷄鳴寺 九華山公園 毘盧寺 静海寺 觀音寺

南京市

上海から新幹線で約3時間、江蘇省の省都でもあり人口 600 万人の大都会。地下鉄も開通し移動も便利になった。三国時代には呉の孫権が都を置いた場所であり、呉関連の遺跡がある。街を歩けば城壁をいたるところで見ることが出来る。現在の城壁は 211 年に秣陵に遷都された際に建てられた。

南京駅は、玄武湖の湖畔の直ぐそばです。



南京駅



南京市街地



南京市街地



駅の近くの玄武湖の湖畔 湖畔には大勢の人々

靈谷寺公園



広大な公園



国民党



古雨花台

高座寺（甘露寺）

南京城南中華門外雨花台にある、東晋建立、元の名前は甘露寺と言いました。

東晋初年、西域沙門尸梨密多羅がこの寺で高い土台に座して説法し、高座道人と尊称された。梁代初年、宝志禪師が住職となり、雲光禪師がここで説法、僧侶 500 余人清聴、説法が素晴らしくて、僧侶が夢中になり、仏も感応され、天から花が雨のように降られていることで、雨花台と直った。



甘露寺の塔



塔からの南京市街



雨花閣記

無梁殿 無梁殿は、洪武 14 年（1381 年）に創建された。本尊に無量寿仏を安置するため、無量殿とも称する。また、その建築に一本の梁や柱も使用していないため、無梁殿と呼ばれる。

1933 年に国民党により国民革命軍陣亡将士公墓の祭堂として改築され、四方の壁には 110 の石碑が埋め込まれており、国民革命軍の戦死者たちの名簿である国民革命軍陣亡将士名单が刻まれている。

1982 年に無梁殿として江蘇省文物保护单位に指定され、2001 年 6 月 25 日に国務院により国民革命軍陣亡将士公墓として全国重点文物保护单位に指定される。

靈谷寺景区の一角には国民政府主席、行政院長を務めた譚延闓の墓もある。

こちらも、2001 年 6 月 25 日に国務院により譚延闓墓として全国重点文物保护单位に指定される。



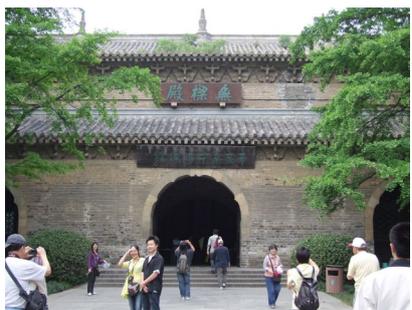
石門



石門には六仁六義と記されている



森の中に記念館



資料館の入り口



大きな山号額



入り口に石塔



資料館内には陸軍軍官学校 模型



当時の兵士たち 模型



戦争当時の模型



国民革命烈士之靈位



国家



墓誌を支える亀鉄

靈谷寺 (灵谷寺) (れいこくじ) は中国南京市の東、中山門外にあり、紫金山の南麓に位置し、中山陵の東 1.5km の靈谷寺公園内にある寺である。

南朝の梁の時代、武帝の天監 13 年 (514 年) に、独龍阜の玩珠峰の麓に創建された。これは、現在の明孝陵の位置に当たる。また、その造立の目的は、この寺に武帝が尊崇した宝誌和尚を葬るためであった。開創当初の寺名は、開善寺であった。唐野乾符中 (874 年 - 879 年) に寺名を宝公院と改め、北宋初の太平興国 5 年 (980 年) には太平興国寺と改められた。明代初期には蒋山寺と呼ばれていた。朱元璋が独龍阜を自らの陵墓の地に選び、よって当寺を現在地に移転し、靈谷禅寺の寺額を賜った。清初には、兵火に遭って大打撃を受けたが、次第に復興を果たした。

康熙帝や乾隆帝がしばしば行幸し、当寺に逗留した。しかし、咸豊年間 (1851 年 - 1860 年) には、再び南京に拠った太平天国の兵火を浴び、乱の平定後には無量殿以外の伽藍は廢墟となってしまった。その後、曾国藩らの手によって次第に復興を果たし、明代の靈谷寺の威容を取り戻した。

中華民国時代の 1928 年には、民国政府によって国民革命軍陣亡将士公墓が建設され 1949 年の中華人民共和国成立以後に靈谷寺公園に改められた。

靈谷塔、桂林石屋、松風閣、無梁殿などがあり、靈谷寺景区を形成している。

無梁殿は国民革命軍陣亡将士公墓の祭堂でもあり、辛亥革命の資料館でもある。寺内に玄奘三蔵の頂骨を安置していたことでも知られる。現在は、東院の觀音殿を玄奘大法師堂と改称し、その遺骨を供養している。



靈谷寺山門



山号額



天王殿何故か正面に布袋様



天王殿の入り口両サイドに四天王



布袋様の後ろには韋馱天



大雄寶殿



大きな山号額



鴟尾 (しび)



大雄客殿の右に鐘



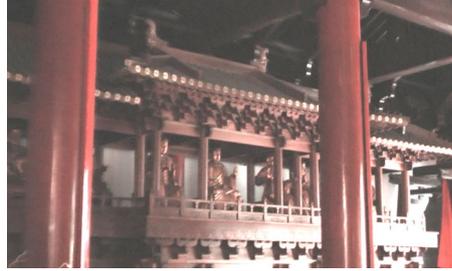
大雄客殿左に太鼓



大きな立派な木魚



大雄客殿には釈迦三尊



左右には立派なご厨子に入った18羅漢達



玄奘院 寺内に玄奘三蔵の頂骨を安置していたことでも知られる。現在は、東院の観音殿を玄奘大法師堂と改称し、その遺骨を供養している。

霊谷寺内の奥には玄奘院が在り、玄奘三蔵の仏像・絵巻・舍利塔などが在りました。



入り口の塀には無阿弥陀仏



霊谷寺大雄客殿の後ろには玄宗院



山門見事な山号額



玄宗院の屋根にも素朴な鴟尾



立派な山号額



玄奘院の解説



玄奘三蔵像



若き日の玄宗



現像三蔵の旅の絵巻



現像三蔵の旅の絵巻



道内には玄奘三蔵の小さい舍利塔

現像三蔵の旅の絵巻



園内には水蓮が咲いていました

道内には三蔵の舍利塔

靈谷塔(れいこくじ)は中国南京市の東、中山門外にあり、紫金山の南麓に位置し、中山陵の東 1.5km の靈谷寺公園内にある寺である。または、大靈谷寺。南朝の梁の時代、武帝の天監 13 年(514 年)に、独龍阜の玩珠峰の麓に創建された。これは、現在の明孝陵の位置に当たる。また、その造立の目的は、この寺に武帝が尊崇した宝誌和尚を葬るためであった。開創当初の寺名は、開善寺であった。唐の乾符中(874 年 - 879 年)に寺名を宝公院と改め、北宋初の太平興国 5 年(980 年)には太平興国寺と改められた。明代初期には蔣山寺と呼ばれていた。朱元璋が独龍阜を自らの陵墓の地に選び、よって当寺を現在地に移転し、靈谷禅寺の寺額を賜った。清初には、兵火に遭って大打撃を受けたが、次第に復興を果たした。康熙帝や乾隆帝がしばしば行幸し、当寺に逗留した。しかし、咸豊年間(1851 年 - 1860 年)には、再び南京に拠った太平天国の兵火を浴び、乱の平定後には無量殿以外の伽藍は廢墟となってしまった。その後、曾国藩らの手によって次第に復興を果たし、明代の靈谷寺の威容を取り戻した。中華民国時代の 1928 年には、民国政府によって国民革命軍陣亡将士公墓が建設された。1949 年の中華人民共和国成立以後に靈谷寺公園に改められた。



森の中の靈谷塔全景



靈谷塔



靈谷塔の入り口



靈谷塔とても高いです



靈谷塔の最上段の天井



頂上から南京市外全景



頂上から全景

中山陵（ちゅうざんりょう）（**孫文の墓**）は中華人民共和国江蘇省南京市東部の紫金山に位置する孫中山（孫文）の陵墓。1926年から1929年にかけて建設された。

牌坊、墓道、陵門、碑亭、祭堂と墓室、これらは縦に一直線上に並んでいる。全て花崗岩とコンクリート等を使い建築された。墓道の階段は392段（当時の中国の人口3億9千200万人にちなむとされる）、高低差は73メートルある。ここを登りきると祭堂があり、祭堂の奥に墓室がある。そのほか「中山陵」周辺には「孫中山紀念館」「音楽台」「中山書院」などがあり「中山陵」を中心とした観光区を「中山陵景区」としている。中山陵の西隣には世界文化遺産である「明孝陵」がある。

南京市の東部に紫金山という高さ450メートルの山がある。この山の南斜面東側高いところに中華民国建国の父孫文の墓、中山陵があり、西側低いところに明の太祖朱元璋の墓、明孝陵がある。また、明孝陵への途中、目立たないところに、三国志の英雄、呉の孫権の墓がある。

孫文の死んだのは1925年の3月であった。

神戸から天津へ向かう船の上から胃痛を訴えていた。天津に上陸して張作霖と会談。会談後、胃痛がひどく医者を呼ぶがその診断は肝臓癌であった。特別列車で北京に移り、ロックフェラー病院で手術をするがすでに手遅れでそのまま縫合してしまった。1925年3月12日死去。享年59歳。遺体は北京の碧雲寺に安置された。

中山陵は1926年から3年を費やして完成した。29年6月1日、この場所で中国国民党葬が行なわれ、孫文の棺は碧雲寺からこの陵に移された。何ともすごいスケールの墓だ。延々と続く壮大な石段を登り切ったところに、青い瓦の屋根と白い壁を持った美しい建物が建っている。正面には「天地正気」の額が掛かり、その下には三民主義を表す「民族・民生・民権」の文字が見える。

大理石の臥像であって、孫文の棺は臥像の下5メートルのところに安置されているということだ。

孫文（そんぶん、1866年11月12日 - 1925年3月12日）は、中国の清末～民初期の政治家・革命家。初代中華民国臨時大総統。辛亥革命を起こし、「中国革命の父」と呼ばれる。号は中山（Zhōngshān）、字は載之。（別名は徳新、帝象、長野高雄、載之、日新、中山樵）。中国では前者で、欧米では孫逸仙の広東語ローマ字表記である Sun Yat-sen で知られる。

中華民国では国父（国家の父）と呼ばれる。また、中華人民共和国でも「近代革命先行者（近代革命の先人）」として近年「国父」と呼ばれる。海峡兩岸で尊敬される数少ない人物である

中国では孫文よりも孫中山（スン・ジョンシャン）の名称が一般的であり、尊敬の念をこめて「孫中山先生」と呼ばれている。中華人民共和国を代表する大学のひとつである中山大学および中華民国の国立中山大学は孫中山からの命名である。



入り口の山門



遠くに見えるが孫文の墓



花で造られた海宝



孫文の墓



孫文の墓見た全景



孫文の墓入り口



入り口には民族・民生・民権書かれています 石で出来た大きな山号額

孫文の墓の全景



夕日が奇麗でした



孫文の石像



墓の入り口



孫文像の大理石で出来たお棺



孫文の顔



石ドーム型の臥像の天上

棲霞寺（せいかに） 建立年代南斉 489 年。中国江蘇省南京にある仏教（隋より唐初は三論宗）の寺院。南京駅から路線バスで約 1 時間の南京の北東 22 キロに位置する棲霞山（摂山）西麓にある。栖霞寺は南斉の永明 2 年（484 年）（永明元年、7 年の説もあり）に処士の明僧紹（字は徴君）が自らの居所を改築して栖霞精舎を開いたことに始まる。また、隋から初唐にかけて、僧朗・僧詮、吉蔵（549 年 - 623 年）らの三論宗の衆徒が、この棲霞山（摂山）の止観寺や栖霞寺を拠点として教勢を張り、摂嶺相承と称せられた。慧布（518 年 - 587 年）は栖霞寺の禅堂を造営した。当のこうそり淵が、功德寺と寺名を改めた。

明の洪武 25 年（1392 年）に寺名を栖霞寺に戻したが、清の咸豊 5 年（1855 年）に栖霞一帯での清軍と太平天国軍の激戦により消失、光緒 34 年（1908 年）に再建され、1500 年以上の歴史があり、南京最大規模の寺である。清代には乾隆帝が「第一金陵名秀山」と称賛した。

三門、天王殿、毘盧殿、石造の無量殿（大仏閣、三聖殿）、磨崖の千仏龕石窟がある。

無量殿の近くの高台には、仁寿舍利塔がある。但し、仁寿元年（601 年）に建塔されたものだが、五代十国の南唐代の重修である。

秋になると紅葉が見事だという。「栖霞紅葉」は南京の有名な風景のひとつであり、さらに「春牛首、秋栖霞」とも言われることもある。周辺地域には六朝の頃の陵墓、石刻がある。1937 年の旧日本軍の南京大虐殺（中華人民共和国の主張）の際に難民約 2 万人が栖霞寺に避難していたとされ、2005 年 8 月に『栖霞寺 1937』という映画が公開された。南京では著名な寺である。

また、この寺は鑑真和上が足を留めたところでもある。



棲霞寺の料金所入口



立派な山号額



棲霞寺立派な石門



何故か池の真ん中に



右に大きく立派な鐘楼



右に大きく立派な鐘楼の山号額



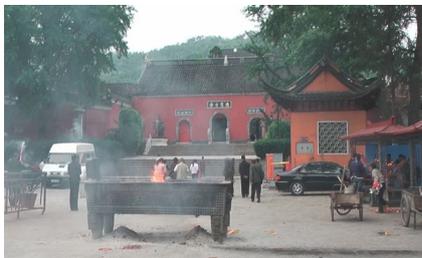
右に大きく立派な鼓楼



右に大きく立派な鼓楼の山号額



何故か万博のマスコット



山門の前は広い敷地



幾つかの線香台



大勢の人が何をお願いしていますか



山門の片隅には棲霞寺石碑



山門の左右の象



山門ここから棲霞寺に入ります



千仏名藍山号額



棲霞寺山号額



六朝勝蹟山号額



中に入ると大きな毘盧寶殿



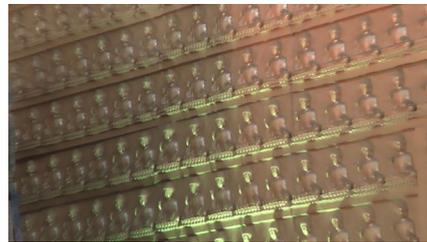
大きな山号額



大きな変った鷗尾



伽藍の正面には立派なご厨子の毘盧舎那如来仏



毘盧舎那如来仏の後ろには小さな仏像が千仏ですか？



伽藍に入ると左右に四天王



四天王



ガラスケースに入った韋駄天 本堂に入ると右に釣鐘が在りました



左には太鼓



左右には十八羅漢がガラスケースの中に





裏堂には立派な観音曼荼羅立像



棲霞寺の潜り門



見事な山号額



伽藍には無量寿仏石像



お参りの終えた僧侶たち



魚桷と雲版

棲霞山石窟

棲霞寺背後の砂岩質の岩壁を造営した石窟群であり、南朝の南齊（479年 - 502年）以後に江南地方で営まれた石窟で、遺例が少ないため資料的価値が高い。

栖霞寺を開創したのは、南齊の処士・明僧紹である。法度を招請して建立し、その後、三論宗の僧朗や僧詮、吉蔵といった諸祖と称せられる名だたる学僧が住した。故に、この地は、三論宗の発祥地とも呼ばれている。寺の方は、寺名が唐代以後に、功德寺、棲霞寺、普雲寺、虎穴寺と変遷し、明代の初めに棲霞寺と変わり、以後、現在に至っている。

石窟に関しては、唐の上元3年（676年）に造立された「明徴君碑」に関連する記述が見られる。それによれば、石窟を造営したのは、明僧紹の子に当たる明仲璋や法度らである、という。また、本尊に相当する無量寿仏像は、梁の天監15年（516年）に、臨川王が建立した、とする。一方、『撰山志』には、陳の江総持による文章が収められている。その中央には、北面した石窟（幅8.18m、深さ6.67m）が穿たれ、その中に無量寿仏像を安置している。その仏像が中心で、小規模な石窟が、北東方向に4窟、西側に20窟を確認できる（幅3.64m、深さ3 - 0.9m）。三尊仏や、十六羅漢、金剛力士、四天王像などが彫られている。この石窟の特徴は、砂岩質で岩質が脆く、摩滅が著しい。



舍利塔の説明書き



本堂の裏仁寿舍利塔（じんじゅしゃりとう）仁寿元年（601年）の物



舍利塔には細かい彫刻がされています。

1千数百年の歳月にも耐えての見事な彫り物です。



棲霞山石窟で一番大きな洞窟 無量寿仏像が中心の三世仏



千仏と言われるだけ岩山の至る所に洞窟が掘られ内部には石像が沢山ありました。



山全体が石仏像です